

編集後記

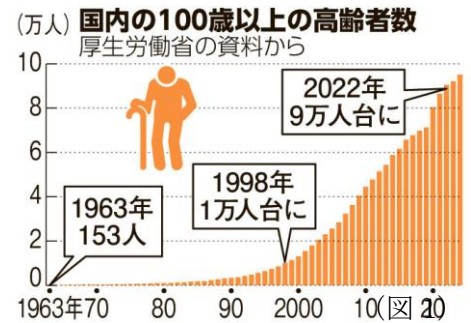
★ 厚労省 100歳以上 最多9万5119人 54年連続増 女性が88%

「敬老の日」(9月16日)に、全国で100歳以上の高齢者が9万5119人(女性8万3958人、男性1万1161人)となったと公表。女性が全体の約88%を占めました。前年比2980人増え、54年連続で過去最多を更新。今年度100歳となる見込みの人は4万7888人(9月1日時点)で、前年度より781人多く、過去最多を更新しました。

都道府県別では人口10万人あたりの人数では、**島根県が159.54人で、12年連続で最も多かった**。次いで2位は高知県、3位は鹿児島県と続き、最少は、**35年連続で埼玉県の45.81人**。因みに兵庫県が36位。

老人福祉法が制定され100歳以上の高齢者は調査を始めた**1963年は153人**で、81年に1000人を突破。98年に1万人を突破。2000年代には急速に伸び12年には5万人、**22年には9万人を超えた**。(図1)

23年度の平均寿命は女性が87.14歳 男性が81.09歳となり、3年ぶりに延びました。新型コロナウイルスによる死亡数の減少が影響したと分析しています。



★ 「団塊の世代」全員75歳以上に 高齢化率、世界200カ国・地域で最高

総務省は「敬老の日」に因んで、65歳以上の高齢者の人口推計を公表。9月15日時点の**高齢者は前年より2万人多い362.5万人と過去最多を更新した**。総人口に占める割合(高齢化率)も過去最高の**29.3%**。いずれも比較可能な1950年以降で過去最高となった。65歳以上の女性は2053万人(女性人口の32.3%)、男性は1572万人(男性人口の26.1%)であった。(図2)

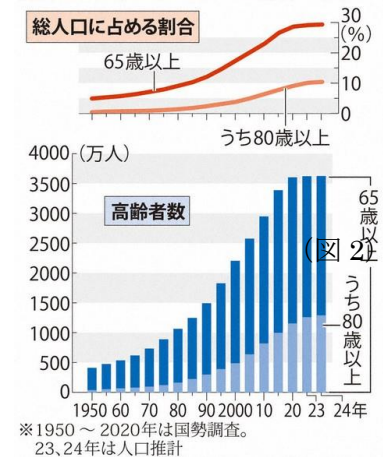
年代別では、75歳以上が71万人増の2076万人となり、総人口に占める割合は0.7ポイント増の16.8%であった。80歳以上は31万人増の1290万人で10.4%で、初めて「10人に1人」を超えた前年から0.3ポイント増えた。第一次ベビーブーム(1947~49年)に生まれた「**団塊の世代**」は今年中に**全員が75歳以上の後期高齢者**となる。来年以降、医療・介護サービスの提供が追いつかない「2025年問題」の本格化が懸念される。国立社会保障・人口問題研究所の集計では**第二次ベビーブーム(1971~74年)世代が65歳以上となる2040年には34.8%まで上昇**する見通しです。

日本の高齢化率29.3%は、世界200カ国・地域で最高。主要7カ国(G7)では、日本に次いでイタリア(24.6%)、ドイツ(23.2%)、フランス(22.1%)となっている。韓国(19.3%)や中国(14.7%)、インド(7.1%)を大きく上回っています。

一方、総務省の労働力調査によると、23年の65歳以上の就業者数は前年より2万人多い914万人。増加は20年連続で、過去最高を更新しました。就業者に占める65歳以上の割合は0.1ポイント減の13.5%であった。65歳以上の就業率は25.2%で前年と同じ。年代別では、65~69歳は52.0%、70~74歳は34.0%、75歳以上は11.4%で、いずれも増加が続く。産業別では「卸売業・小売業」が132万人で最も多く、「医療・福祉」が107万人となっている。

65歳以上の就業者数は過去最多を更新し続けている。人手不足に加え、元気な人が多いため、**高齢者の定義を「65歳以上」から「75歳以上」に上げるべきだとの声**も出ている。一方 職場での労働災害が若い人より多いという面もあり適切な労働管理が求められています。**日本老年学会も医学的観点より「高齢者の定義は75歳以上」との見解を示している**。年齢に係わらず社会参加できる**「エイジフリーな社会」**を目指すべきだと提言。70歳以上や75歳への引き上げ論は経済界からも出ています。

高齢者数と総人口に占める割合の推移



この猛暑 超えれば 寿命のびる 気が

令和6年 酷暑

(文責 MMY)